



G・Pスケール

歯冠修復の際、特に前歯の大きさ、バランスの取り方は、歯科技工士にとって最大の関心事である。

G・Pスケールは「デンタル黄金分割シート」と「デンタル比例コンパス」のセットとなっており、それぞれの目的に応じて使い分けることができる。これらは審美性に対する問題を解決するために歯科専用開発された測定器具である。



審美的に重要な前歯部の調和

歯列において審美の基準は上顎中切歯、側切歯、犬歯の前方観が黄金分割の比率で調和がとれていることが大切である。



・デンタル比例コンパス

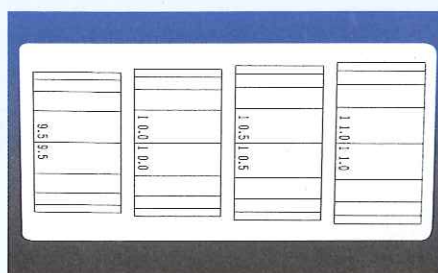
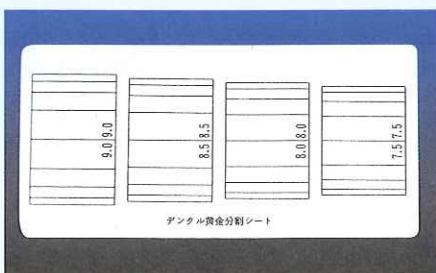
この比例コンパスは軸を中心に開閉した時、開閉量にかかわらず小さい部分は「1」、大きい部分は「1.618」で、この比率は常に一定に保持されている。



・デンタル黄金分割シート

これは、前歯部の修復物を制作する際、中切歯、側切歯、犬歯の審美的調和のとれた大きさのガイドとなるものである。

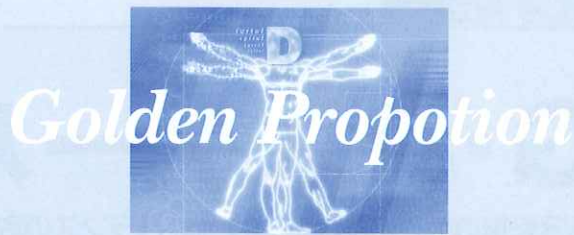
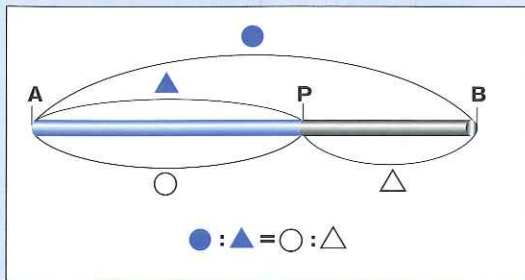
このシート1枚の表裏に7.0mmから0.5mmきざみに11.0mmまで8種類の中切歯の幅径を示す数値が刻印されており、そこに模型の中切歯を合わせることで側切歯、犬歯の前方値は自動的に決まる。



黄金比(分割)の審美歯科への応用

黄金比とは、線分(両端が限られている直線の一部)
AB上を点Pで分け、 $AB:AP=AP:PB$ としたとき、
点Pは線分ABを黄金分割(Golden Section)すると
いい、このときの2線分の比 $AP:PB$ を黄金比(Golden
Propotion)という。

その比を数値化したとき小さい部分「1」に対し、
大きい部分は「1.618」となる。



この比率は絵画の構図を学ぶ上で基本となるもの
で人間にとって本能的に調和的で美しいと感じる
もので、古代ギリシャ以来何世紀にもわたり人々
の美的感覚を魅了してきた。

代表的なものにギリシャ遺跡のパルテノン神殿の
縦と横、ミロのビーナスのへそから上と下、一般的
名刺の縦と横などがある。

審美的に重要な前歯部の調和

歯列において審美の基準は上顎中切歯、
側切歯、犬歯の前方観が黄金分割の比率
で調和がとれていることが大切である。

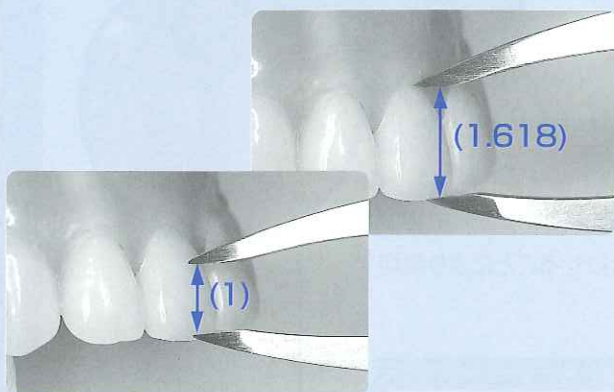
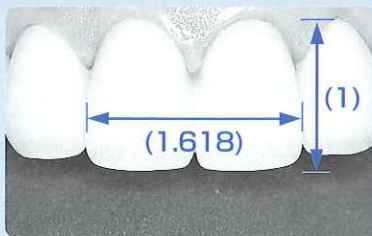
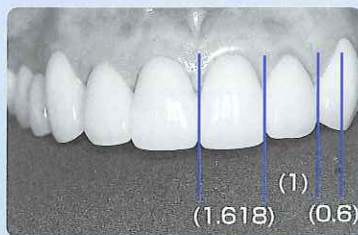
○中切歯の近遠心径「1.618」に対し、
側切歯は「1」の比率。

○側切歯の近遠心径「1.618」に対し、犬歯の視覚域は「1」の比率。

○左右中切歯の2歯分の幅径「1.618」に対し歯冠長「1」の比率。

(笑ったとき、最も目立つのは中切歯であり、中切歯の幅径と歯冠長のバランスは重要である)

○前歯唇側面の最大豊隆部は歯冠長「1.618」に対し、切縁より「1」の
比率の位置にある。



審美には主観美と客観美とがあり、歯科医療においては術者である歯科医あるいは技工士が考える審美(客観美)と患者が感じる審美(主観美)にはかなりのギャップがあることが多い。

そのギャップを埋めるには共通の美意識が必要となる。
G・Pスケールはこれからの審美歯科においてなくては
ならないツールである。

希望医院価格: **7,900円**(税別)
コンパス1個、分割シート1枚

参考文献 Edwin I. Levin: 歯科における審美性と黄金分割その(1)その(2)Q.D.T 9/1980.

株式会社日本歯科商社



JAPAN DENTAL SUPPLY

東京本社:〒130-0011 東京都墨田区石原 1-19-5 TEL (03) 3625-3111
大阪本社:〒556-0005 大阪府浪速区日本橋 4-3-9 TEL (06) 6643-0085
北海道営業所:〒001-0016 札幌市北区北16条西5-3-18 TEL (011) 716-7001
九州営業所:〒816-0093 福岡市博多区那珂 4-16-22 TEL (092) 436-2288